

作成年月日：西暦 2025 年 7 月 17 日 (Ver.1.0)

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の許可を得て、個人情報保護法に規定する規律を遵守して実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って仮名加工化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性がありますが、個人が特定される情報は一切公開しません。本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

**【研究課題名】**久留米大学ダイバーシティ推進のための「組織文化サーベイ」による組織調査

**【研究目的】**

「多様性＝ダイバーシティ」は、近年、組織や社会、教育など様々な領域で注目を集める概念です。多様性とは、個々の違いを尊重し、多様な人々や考え方を受け入れることを意味します。一方、インクルージョンは日本語で「包摂」や「受容」と訳され、組織のすべての構成員が尊重され、それぞれの能力を十分に発揮し活躍できる状態を指します。ダイバーシティとインクルージョンは、どちらも複雑化・多様化する現代社会において、組織が持続的に発展するために不可欠な考え方です。

多様性を取り入れることで、創造的なアイディアの創出や意思決定の質の向上、人材の確保・定着といった結果が得られる可能性があります。一方で文化や価値観の違いによって誤解や摩擦が生じたり、意見の対立から意思決定に時間がかかるなど、組織運営上の新たな課題も浮かび上がります。

そこで本研究では、ダイバーシティ推進の視点から久留米大学の組織文化を可視化し、その現状と課題を明らかにすることを目的とします。本学の全教職員を対象に、オンラインによる質問紙調査「組織文化サーベイ」を継続的に実施し、組織の実態を経年的に把握します。加えて、得られた知見をもとに、各組織における有効な取り組みを共有・展開し、よりよい組織づくりへの活用を図ります。

本研究を通じて、久留米大学が多様性を認め、互いを尊重し合う風土を育み、多様性を活かす組織文化の構築を目指します。

**【研究（利用）期間】**

研究開始予定日：実施許可日

研究終了予定日：西暦 2030 年 3 月 31 日

**【利益相反に関する事項】**

本研究は特定企業からの資金援助はなく利益相反は発生しないため、本研究に関して申告すべきことはありません。

**【問い合わせ先】**

研究責任者（情報の管理責任者）：久留米大学ダイバーシティ・インクルージョン推進室 守屋普久子

問い合わせ担当者：研究責任者と同じ

電話：0942-65-4719（受付：月・水・金 9時～17時）

E-mail：moriya\_fukuko@kurume-u.ac.jp